

関わるすべての人たちが、みな幸せになる 「いい会社をつくりましょう」



おもてなし経営のポイント

- ❖ 仕事・プライベートを問わずに相談し合える、家族のような関係
- ❖ 社員一人ひとりの主体性と「目的と手段を取り違えない」という考え方
- ❖ 地域の方々への恩返しを目的とした「かんでんぱぱガーデン」

経営理念と企業文化

家族のような社員関係は いい意味での「おせっかい」

長野県伊那市に本社を構える伊那食品工業株式会社は寒天のメーカーである。多様な用途の寒天をはじめ、各種天然ゲル化剤の製造・販売を主軸としつつ、本社敷地内の直営レストラン、ショップ、美術館などの運営も行なっている。実直な「年輪経営」で、創業以来48年間増収増益を継続した会社としても知られるところだ。

「うちの社員は、いい意味でおせっかいなんですよ」。ある社員はこのように語る。同社では「いい会社をつくりましょう」の社是のもと、「会社は社員の幸せの増大のためにあるべき」として、その実現を追求し続けている。「社員は家族」との考えはその一つ。公私ともに常に助け合うことを信条とする。「風邪をひいたら、いつの間にか、すれ違う人みんなが知っていて『大丈夫?』と心配してくれる」、「社員旅行では話したことのない人と20～30人のグループになりますが、すぐに仲良くなる」といったエピソードは象徴的だ。

仕組みとしては、朝礼や月例会で経営理念が共有されているほか、自



突然の大雪でも、朝早くから社員が自然と集まり、自主的に雪かきを行なう。また、年を通してそれぞれの社員が、敷地を越えて周辺も意欲的に掃除する。

主的に行なわれる毎朝の掃除や雪かき、10時と15時のお茶の時間などがあり、「みんなで集まって何かをする場」が数多く設けられている。会議では「話しやすい席の配置」にまで気を配る徹底ぶりだ。こうした取り組みが、自然とコミュニケーションが促進される環境をつくり、家族的な社風を育むのだろう。

仕事・プライベートを問わず、相談し合える関係が先輩後輩の間にあることで、常に前向きな気持ちで仕事に臨み、働きやすさにつながっている。「将来はどうなりたいか」との質問の

答えが印象的であった。「もっと気配りができて、自分がいることで雰囲気よくなる人間になりたい」、「君がいてよかったと思われる人になりたい」。相手を思う言葉と笑顔は、社是の具現化を如実に表していた。

社員の意欲・能力向上

社内規則は あってないようなもの

塚越寛会長は「目的と手段を取り違えない」ことを常に伝えてきた。現在で



写真【1】:かんでんの基礎研究の積み重ねにより、伝統的な和菓子への利用のみならず、細菌培地、組織培養、医薬品、バイオテクノロジーなど、最先端の分野にも用途を広げている。
写真【2】:何よりも大切な羅針盤である社是「いい会社をつくりましょう～たくましくそしてやさしく～」は、会社のいたるところで目にする事ができる。
写真【3】:会社も街づくりの一環と考える同社では、本社・北丘工場周辺の緑地帯を「かんでんぱぱガーデン」と名づけ、多種多様な植物を育てている。
写真【4】:朝礼や月例会など、部門を超えて社員が集まる場が数多く設けられている。

は、社員の日常会話にまで浸透している。たとえば、「社内に規則はあるが、それはあってないようなものだ」という考え。社内の規則は経営理念を達成するための一つの手段であり、目安に過ぎない。行動の是非を考えると、規則よりも本来の趣旨と照らして判断することが大切。そういった会話が業務内で頻繁に交わされている。目的か手段かを社員自らが考えることによって、社員の自主性、気づくり力も育まれる。

インタビュー当日、昨晚からの雪で敷地には一面雪が積もっていたが、早朝5時半から社員が自主的に出社し始め、重機を使える社員は重機で、その他の社員は来客が使う玄関前や歩道橋、通路を優先的に雪かきしていた。しかも、あらかじめ持ち場が決まっていたのではなく、さまざまな部署の社員が協力し、必要な箇所や

自分がなすべき役割を自主的に判断した上での行動なのだ。自主性、気づくり力、チームワーク、そして人に役立つ喜びが感じられる光景であった。

地域・社会との関わり

効率的な経営よりも 地域の方への恩返し

「伊那食品工業は、南信州の伊那に生まれ、伊那に育った企業です。経営上の効率を考えれば、本社を東京に移転することになるでしょう。けれども私は、伊那谷の風土と人々に育てられてきたという感謝の気持ちが強く、この土地への愛着とこだわりを感じつづけています」(出典:塚越寛『いい会社をつくりましょう』文屋、2004年、p.191)。

地元を愛する思いから、同社の敷

地内には事務所や工場のほか美術館、レストラン、ショップ、多目的ホールや広場などがつくられている。たとえばインテリアショップは、営業担当者の「各地で仕入れたいいものを地域住民に届けたい」との思いによってつくられた。また、全社員が丹精を込めて花々を育てる庭園は、伊那市の観光ガイドブックに花の名所として紹介されるまでになった。春や秋には80種類におよぶ山野花を楽しめる。さらに、美術館では地元出身の画家の絵や伊那を囲む山々の写真が観賞できる。これらの緑地帯を「かんでんぱぱガーデン」と総称し、同社は無料開放している。来場者が増える観光シーズンには、美術館やレストランを社員が手伝うことになるが、遠方からの観光客にも、地域住民にも「いい会社だね」と喜んでもらうために、おもてなしの精神で対応に当たっている。

会社概要

- ・法人名:伊那食品工業株式会社
- ・代表者:井上 修 代表取締役社長
- ・所在地:長野県伊那市西春近広域農道沿い
- ・設立年月:1958年6月設立
- ・社員数:正規433名、パート・アルバイトなど44名
- ・ホームページ: <http://www.kantenpp.co.jp/>

- ・事業内容:寒天(一般食品用、乳業用、化粧品用、医薬品用、バイオ用、培地用など)のトップメーカー。各種天然ゲル化剤(カラギナン、アラビアガム、グアーガムなど)の製造・販売。一般家庭向け寒天製品「かんでんぱぱ」の製造・販売。直営レストラン・カフェ・ショップ・多目的ホール・かんでんぱぱミュージアムなどのサービス施設事業。